

ぱたぱた えほん あしはら 葦原かも

りなちゃんは、こどもべやで、えほんをよみながら、ねむってしまいました。ちいさなぞうがでてくる、おきにいりのえほんです。

「りなちゃん、ねちゃった」

えほんが、こえをだしました。そして、ひらいたまま、ふわっとうかびあがったのです。

「わたし、ちよつとあそびにいつてくる」といつたら、まどが、ひくいこえで

「いつてらっしゃい」

といつて、がらりとあいてくれました。

「ありがとう」

えほんは、ぱたぱたとぱたいて、だんちの5かいから、そとにどんでいきました。

さわやかなかぜにのつて、ふわり、ぱたぱた。なんてきもちがいいのでしょ。

「えほんだつて、たまにはそとにでなくっちゃ。いつも



いえのなかじゃ、つまらない」
ベランダのせんたくものが、てをふっています。

えほんはぐんぐんとんで、こうえんにやってきました。

「グルッポッポー、ねえねえ、えほんさん」
うしろからこえをかけてきた

のは、キジバトでした。

「こんにちは」

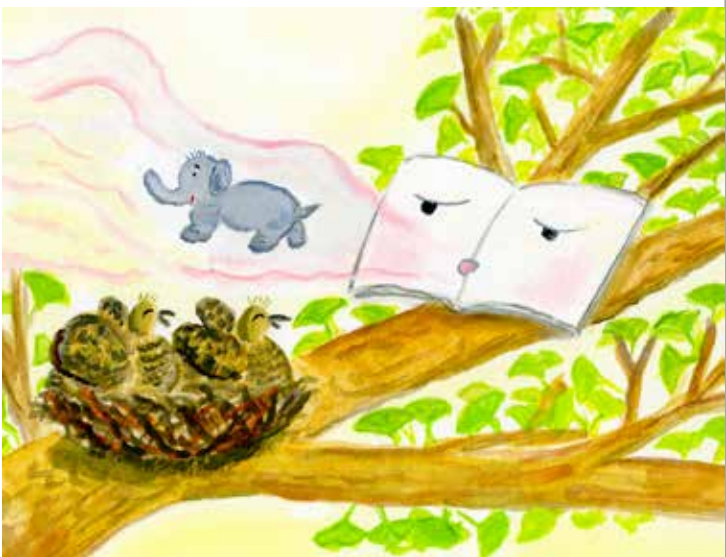
えほんがあいさつすると、キジバトは

「ちよつとだけ、おじかんいただけないかしら。うちの子たちに、えほんをよんであげたいの」といいました。

「ええ、よろこんで」

えほんは、うれしくなつて、キジバトについていきました。

大きなイチヨウの木の上に、キジバトのすががありました。ちかづくつと、2わのひなたち



が、びいびいとないて、くびをのばしました。

「わたし、ちよつとたべものをさがしてくるので、えほんさん、あの……じぶんでよんでくださる？ わたし、キジバトなので、もじはよまないものですから」

「まかせてちょうだい」

えほんは、じぶんにかいてあるおはなしを、ちゃんとおぼえていました。りなちゃんのおかあさんが、なんどもよんであげていたからです。

「ちいさい、ぞうがいました」

ページをめくりながら、よみはじめると、2わのひなたちは、なくのをやめて、じつときいていました。おもしろいばめんでは、ぴやあぴやあとわらい、すからおちそうになるくらいでした。

えほんが3かいめを、よみはじめたとき、

「グルッポッポー」

と、こえがしました。キジバトのおかあさんが、ようやくかえつてきたのです。

「ごめんさい、すつかりおそくなっちゃつて。子どもたちのわらいこえが、きこえてきたわ。ありがとうね」

キジバトは、おれいにオシロイバナを1りん、えほんにはさんでくれました。きれいなこいピンクで、とてもいいかおりがします。

「りなちゃんに、みせてあげなくちゃ」

えほんは、ふわっとうきあがり、ぱたぱたとんで、かえつていきました。

「おかえり」

と、まどが、ひくいこえでいきました。

りなちゃんはまだ、ねむっています。

えほんは、オシロイバナをはさんだまま、なにもなかつたように、ぱたん、と、ページをとじました。

(おしまい)